外耳道に発生した脂腺上皮腫例

小嶋 章弘¹⁾・斎藤 武久²⁾・斎藤 等²⁾・今村 好章³⁾

Sebaceous Epithelioma in the External Auditory Canal

Akihiro Kojima

(Fukui Kosei Hospital)

Takehisa Saito, Hitoshi Saito and Yoshiaki Imamura

(Fukui Medical University)

Sebaceous epithelioma is a rare skin tumor with sebaceous differentiation. Histopathologically, it is composed of undifferentiated basaloid cells, differentiated sebaceous cells and transitional cells. Our patient was an 80 year-old man with an asymptomatic tumor in the right external auditory canal. The tumor was 1.2×0.8 cm and had a stem at the lower wall of the external auditory meatus and could be completely resected. During a one-year follow-up period, there was no recurrence of the tumor.

Key words : sebaceous epithelioma, external auditory canal

はじめに

脂腺上皮腫 (sebaceous epithelioma) は脂腺由来,あるいは脂腺に分化を示す比較のまれな腫瘍である。今回われわれは左外耳道に発生した,非常にまれな脂腺上皮腫の1例を経験したので,若干の考察を加えて報告する。

症 例

症例: 80歳, 男性。

主訴: 右耳閉感, 搔痒感。

既往歴: 69歳時, 狭心症。

家族歴: 特記すべきことなし。

現病歴: 平成11年11月頃より上記主訴出現したため, 近医耳鼻咽喉科を受診した。同医にて右外耳道を閉塞する腫瘍を指摘され, 平成12年2月25日福井医科大学附属病院耳鼻咽喉科に紹介受診となった。

現症: 右外耳道入口部を閉塞するように, 外耳道下壁に茎を有する直径約1cmの腫瘍を認めた (図1)。

手術所見: 平成12年3月24日, 外耳道腫瘍を局所麻

酔下に皮下脂肪組織層にて切除, 全摘して一期的に皮膚縫合を行った。図2に摘出標本を示す。

病理組織所見: ヘマトキシリン・エオジン (HE) 染色弱拡大による観察では, 数層の上皮に覆われた嚢胞状構

図1 術前局所所見
外耳道下壁に茎を有する腫瘍 (矢印) を認める。

1) 福井厚生病院耳鼻咽喉科

2) 福井医科大学耳鼻咽喉科学教室

3) 福井医科大学第一病理学教室

図2 摘出標本
φ1.2 × 0.8 cm, 有茎性

造と、真皮上層から深層にかけて大小さまざまな不整形の分葉構造を示す腫瘍胞巣を認めた(図3左)。一部は小葉状に集簇していた。辺縁では、腫瘍細胞と正常組織の間は被膜状の線維性組織により境界されていた。同染色強拡大(図3右)では、小葉を形成する腫瘍細胞は2種類に大別された。1種類はNC比が高く、胞体が好塩基性に染まる基底細胞様細胞(germinative basaloid cells)で密に増生していたが、明らかな柵状配列は認めなかった。細胞分裂像は散見されたが、明らかな異常分裂像はみられなかった。もう1種類は小形橢円形核を有し、泡沫状の豊かな細胞質を持った脂腺細胞様細胞で、軽度の大小不整が認められるのみで、異型性に乏しい像であっ

た。両者の間には移行細胞と考えられる細胞成分もあった。以上より脂腺上皮腫であると診断した。

術後経過：腫瘍を全摘し1年が経過したが、再発は認めていない(図4は術後1年経過時の耳内所見である)。

考 察

脂腺上皮腫は脂腺への分化を示す腫瘍と考えられるが、いまだにその組織発生や分化の程度についての位置付けがあいまいである。従来より脂腺系の腫瘍は、脂腺腺腫(sebaceous adenoma)、脂腺上皮腫(sebaceous epithelioma)、脂腺分化を伴う基底細胞上皮腫(basal cell epithelioma with sebaceous differentiation)、脂腺癌(sebaceous carcinoma)という4つの分類が一般的である。Leverら¹⁾²⁾によると、脂腺腺腫と脂腺上皮腫については、脂腺細胞様細胞が優位を占めるものを脂腺腺腫、基底細胞様細胞が優位を占めるものを脂腺上皮腫とし、分化度においては脂腺上皮腫は脂腺腺腫と脂腺分化を伴う基底細胞上皮腫の間に位置付けられるものとした。

しかし、Troyら³⁾は従来のこれらの分類を排し、転移や明らかな局所浸潤のない脂腺腫瘍群を一括して脂腺腫(sebaceoma)と呼称することを提唱、脂腺上皮腫はこれに含まれるものとした。本邦では三原⁴⁾がこの新しい概念を報告し、脂腺腫を良性で、かつ脂腺分化を示す附属器新生物として位置付けた。さらに皮膚新生物を組織学的悪性度から良性と悪性のみに二分し、その中間としての上皮腫(epithelioma)という疾患概念は否定した。

図3 病理組織所見(HE染色:左;×25,右;×100)

左:数層の上皮に覆われた嚢胞状構造と真皮上層から深層にかけて大小さまざまな不整形の分葉構造を示す腫瘍全体の断面像(矢印の内部)。

右:腫瘍胞巣内の基底細胞様細胞(白矢印)と脂腺細胞様細胞(黒矢印)を認める。

表 1 脂腺上皮腫の本邦での報告例 (8 例)

年齢	性別	部位	大きさ (mm)	再発	報告者	報告年
84	女	左外耳道	15 × 15	なし	Saito ら ⁷⁾	1991
64	女	左耳介	21 × 9	なし	赤坂ら ⁸⁾	1992
83	女	頭頂部	10 × 10	なし	Watanabe ら ⁹⁾	1994
31	女	左眉毛	11 × 14	なし	小方ら ⁶⁾	1996
65	男	左側頭部	20 × 20	なし	日山ら ¹⁰⁾	1996
83	女	鼻翼部	9 × 7	なし	岩崎 ¹¹⁾	1997
73	女	前頭部	12 × 10	なし	矢島ら ¹²⁾	1998
64	男	右上眼瞼	4 × 4	局所	塚田ら ¹³⁾	1999

図 4 術後 1 年経過時の耳内所見
腫瘍の再発は認められない。

このような概念に対し、熊切⁵⁾は細胞分化の点より異論を唱えている。すなわち、基底細胞上皮腫は未分化細胞から構成され、柵状配列などの特徴的組織像を呈するものであり、脂腺腺腫、脂腺上皮腫とは細胞分化のレベルの明らかに異なる腫瘍であるとしている。毛包上皮腫が基底細胞腫から区別されるように、脂腺上皮腫も一つの entity として理解したいと報告している。小方ら⁶⁾も免疫組織化学染色によるケラチン発現パターンを検討した結果、脂腺上皮腫と脂腺分化を伴う基底細胞上皮腫ではケラチン発現パターンが異なり、組織発生が異なるものと考えられると報告している。これらの意見も踏まえ、われわれも脂腺上皮腫を一独立疾患として扱う方がよいと考えている。

脂腺上皮腫の発生部位については、われわれが渉猟した 8 例中では外耳道に発生したものは本症例を含めて 2

例であり、珍しいものとする (表 1)^{6)~13)}。

また、脂腺系の腫瘍について注意すべき点は、内臓悪性腫瘍との合併である。多発性脂腺腫瘍に多発性内臓悪性腫瘍 (特に結腸を中心に高分化型腺癌が多発する) を合併する症例は Muir-Torre 症候群と呼ばれ、本邦でも多田ら¹⁴⁾により報告されている。Rulon ら¹⁵⁾は、単発性の脂腺系腺腫患者についても 46 例中 11 例に内臓悪性腫瘍の合併を報告しており、たとえ単発性の脂腺系腺腫であっても skin marker of internal malignancy となる可能性があることを示唆している。残念ながら本症例においては患者の了解が得られず、大腸ファイバー等の精査を施行できていないが、内臓悪性腫瘍の発生についても長期にわたり留意する必要があると思われる。

ま と め

1. きわめてまれな外耳道脂腺上皮腫の 1 例を経験した。
2. 腫瘍を完全摘除し、術後 1 年経過するが、再発は認めていない。
3. 脂腺上皮腫は、多発性内臓悪性腫瘍の skin marker of internal malignancy となり得る可能性が示唆されており、注意が必要である。

参考文献

- 1) Lever WF : Pathogenesis of benign tumor of cutaneous appendages and basal cell epithelioma; I. benign tumors of cutaneous appendages. Arch Dermat & Syph 57 : 679 ~ 708, 1948.
- 2) Lever WF and Schaumbert GL : Sebaceous adenoma. Histopathology of The Skin (7th Ed.) (ed by Lever WF and Schaumbert GL). pp 597 ~ 598, JB Lippincott Co, Philadelphia, 1990.
- 3) Troy JL and Ackerman AB : Sebaceoma; a distinctive benign neoplasm of adnexal epithelium differentiating toward seba-

- ceous cells. *Am J Dermatopathol* 6 : 7 ~ 13, 1984.
- 4) 三原一郎 : 脂腺腫 (Sebaceoma). *臨皮* 40 : 77 ~ 82, 1986.
 - 5) 熊切正信 : 脂腺上皮腫. *臨皮* 38 : 889 ~ 891, 1984.
 - 6) 小方秀子, 大西誉光, 渡部晋一, 他 : 脂腺上皮腫の 1 例—ケラチン発現の免疫組織化学的検討—. *皮膚臨床* 38 : 1749 ~ 1752, 1996.
 - 7) Saito C, Nishioka K, Watanabe S, et al. : Sebaceous epithelioma in the external auditory meatus: a case report. *Hiroshima J Med Sci* 40 : 79 ~ 81, 1991.
 - 8) 赤坂俊英, 今村優子, 富地信和, 他 : Sebaceous epithelioma の一例. *皮膚臨床* 34 : 207 ~ 209, 1992.
 - 9) Watanabe R, Kawai K, Ito M, et al. : Sebaceous epithelioma. *J Dermatol* 21 : 35 ~ 41, 1994.
 - 10) 日山 亨, 横崎 宏, 安井 弥, 他 : 脂腺上皮腫の 1 例. *広島医学* 4 : 577 ~ 578, 1996.
 - 11) 岩崎光順 : 脂腺上皮腫の 1 例. *皮膚臨床* 39 : 828 ~ 829, 1997.
 - 12) 矢島千穂, 熊切正信, 小林 仁, 他 : 脂腺上皮腫の 1 例. *皮膚臨床* 40 : 226 ~ 227, 1998.
 - 13) 塚田真奈美, 大原國章 : 脂腺上皮腫の 1 例報告とその名称について. *皮膚臨床* 41 : 1325 ~ 1327, 1999.
 - 14) 多田 茂, 井上勝平 : Muir-Torre 症候群. *皮膚病診療* 10 : 419 ~ 422, 1988.
 - 15) Rulon DB and Helwig EB : Cutaneous sebaceous neoplasms. *Cancer* 33 : 82 ~ 102, 1974.
-
- 原稿受付 : 平成13年 5 月21日
原稿採択 : 平成13年 7 月 4 日
別刷請求先 : 小嶋章弘
〒910-1193 福井県吉田郡松岡町下合月23-3
福井医科大学耳鼻咽喉科学教室